

成果と課題及び指導改善のポイント

小学校社会（小学6年生）

成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆) 及び 出題の趣旨

- ◇ 資料から、予算の費目の割合や税金の集められ方、使われ方について読み取ることができる 設問2(2)
- ◇ 鎖国中に貿易をしていた相手国と貿易していた港を理解している 設問5(3)
- ◆ 壇ノ浦と鎌倉の位置を理解している 設問4(1)
- ◆ 資料を基に、参勤交代が江戸幕府の政治を安定させたと考えられる理由を説明することができる 設問5(1)

小学校社会の課題を解決するための授業改善に取り組みましょう（☑してみましょう。）

- 資料を基に、歴史上の主な事象（参勤交代や鎖国など）の意味を多角的に考えたり、歴史上の出来事的位置を示したりする設問に課題が見られました。これらの課題を解決するために、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善することが大切です。
 - 資料から読み取った情報と歴史上の事象とを関連させ、児童が複数の立場や意見を踏まえて考えたことを互いに説明したり議論したりする場面を設定している。
 - 歴史上の出来事的位置や経路、広がりや分布などについて、地図帳などを用いて調べたことを整理してまとめる活動を設定している。

小学校理科（小学6年生）

成果が見られた設問(◇)と課題が見られた設問(◆) 及び 出題の趣旨

- ◇ 物の燃え方の実験結果を、日常生活の場面に適用して説明することができる 設問2(2)
- ◇ 物の溶け方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができる 設問4(4)

令和3年度佐賀県小・中学校学習状況調査小学校理科においては、課題が見られた設問はありませんでした。

小学校理科の課題に対応した指導改善のポイント（☑してきましょう。）

- 令和2年度の調査で課題が見られた、学んだことを実際の自然の現象に当てはめて解釈したり、観察・実験器具の適切な使い方を捉えたりすることに改善が見られました。引き続き日々の授業を振り返り、「主体的・対話的で深い学び」の視点を踏まえて、授業を改善していきましょう。
 - 観察・実験の結果を基に、事実（条件と結果）と解釈（結果から言えること）を分けて整理し、科学的な言葉や概念を用いて自分の考えを記述したり、説明したりする活動を取り入れている。
 - 観察・実験を行う目的を明確にして、器具を使う必要性を児童に実感させ、器具の操作手順や器具を使うよさを確かめ合ったり振り返ったりする活動を取り入れている。



正答表とセットになった「指導改善のポイントが分かる資料」も、併せてご覧ください。

集計結果 ※「▼」は「要努力」を示す

	児童生徒数	正答率	無解答率	到達基準	到達状況
県	7,052	79.5	0.6	56.8	

※ 県の結果には、「未習：１なし」かつ「集計対象：１対象」で入力された児童生徒の調査結果が反映されています。

分類・区別集計

分類	区分	対象設問数 (問)	正答率		無解答率		到達基準	到達状況
				県		県		
学習指導要領の 内容・領域等	物質・エネルギー	10		81.8		0.4	58.0	
	生命・地球	9		76.9		0.9	55.6	
評価の観点	知識・技能	6		79.3		0.8	60.0	
	思考・判断・表現	13		79.6		0.6	55.4	
問題形式	選択式	12		81.3		0.1	58.3	
	短答式	2		81.4		1.8	70.0	
	記述式	5		74.6		1.3	48.0	

※ 一つの設問が複数の区分に該当する場合があるため、それぞれの分類について各区分の設問数を合計した数は、実際の設問数とは一致しない場合がある。

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等					評価の観点			問題形式		正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
			物質・エネルギー	生命・地球				知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式		県			
1	(1)	日光と養分の関係を調べる観察・実験について、予想を基に仮説をより確かなものにする観察・実験を構想することができる	○						○			○		68.6		2.2	50	
1	(2)	植物の葉に日光が当たると養分が作られることを理解している	○						○			○		91.5		0.1	60	
1	(3)	植物が根から取り入れた水の行方を調べるための適切な実験方法を身に付けている	○						○			○		81.9		1.1	50	
1	(4)	考察を、実験の結果から導き出せることだけに言及した内容に改善することができる	○						○			○		82.7		0.1	50	
1	(5)	観察・実験の結果を基に、蒸散について分析をすることができる	○						○			○		63.7		1.2	50	
1	(6)	顕微鏡の適切な使い方を身に付けている	○						○			○		59.3		0.1	40	
2	(1)	燃焼後の酸素と二酸化炭素の体積の割合の変化を示す二つの異なる方法の実験結果を分析し、考察することができる	○						○			○		83.9		0.0	60	
2	(2)	物の燃え方の実験結果を、日常生活の場面に適用して説明することができる	○						○			○		86.2		0.2	50	
3	(1)	条件を制御しながら振り子の往復する時間を調べる実験を構想することができる	○						○			○		81.2		0.1	70	
3	(2)	グラフにまとめた実験の結果を、問題に対応した視点で分析することができる	○						○			○		72.4		1.9	40	
3	(3)	振り子の規則性をものづくりに適用することができる	○						○			○		77.2		0.1	60	
4	(1)	物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないことを調べるための実験の不備を見だし、改善することができる	○						○			○		75.9		0.1	60	
4	(2)	物が水に溶けても、水と物を合わせた重さは変わらないことを理解している	○						○			○		83.8		0.1	70	
4	(3)	実験結果と物が水に溶ける量を示した表を関係付けて分析し、考察することができる	○						○			○		86.6		0.7	70	
4	(4)	物の溶け方について、予想が確かめられた場合に得られる結果を見通して実験を構想することができる	○						○			○		87.7		0.2	50	

設問別集計結果

問題番号		出題の趣旨	学習指導要領の 内容・領域等						評価の観点			問題形式			正答率		無解答率		期待正答率	課題が見られる設問
			物質・エネルギー	生命・地球					知識・技能	思考・判断・表現		選択式	短答式	記述式		県		県		
4	(5)	実験結果から物の溶け方について、より妥当な考え方に改善することができる	○						○			○				83.4		0.3	50	
5	(1)	流れる水の働きの実験結果を、日常の場面に適用することができる	○						○			○				85.3		0.2	60	
5	(2)	浸食を理解している	○						○				○			76.3		2.9	70	
5	(3)	川の上流と下流では、川の様子が異なることを理解している	○						○			○				83.3		0.3	70	